Smart Senior Council of Japan

令和4年4月1日

日本賢人会議所

第 8 号

新型コロナウイルス感染症からの教訓

顧問　横倉 義武

社会医療法人弘恵会理事長　日本医師会前会長

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが起きて2年が経つ。昨年10月に上梓した『新型コロナと向き合う－「かかりつけ医」からの提言』でも述べたが、この間、感染症パンデミックに対するわが国の危機管理体制や医療提供体制の脆弱性が浮き彫りになった。

我々医師にとっては、コロナ患者さんもそうでない患者さんも生命の重みは等しく、誰にでも必要な医療を提供したいと思う。

地域医療の現場では、感染症指定医療機関かそうでない医療機関かという壁を取り払い、各々の医療機関の専門性や機能などを考慮しつつ地域における役割を見直し、入院・宿泊施設や自宅療養の方々に対する「コロナ医療」とそれ以外の疾患を抱える方々への「通常医療」をともに全うしうる医療提供体制の仕組みを検討し、問題が発生する度に再考を繰り返し、地域の人々の最善の医療を目指して奮闘する日々である。それでも、地域の医療資源には限界があるため、国に

は地域医療の現場をしっかりとサポートして欲しい。

さらに、将来起こり得る感染症パンデミックに向けて、今回のコロナ対応の教訓を踏まえた政策の立案が求められる。国は、医療法に基づく第八次医療計画の中に「新興感染症等の感染拡大時における医療提供体制の確保」を新たに追加し、感染拡大に対応可能な医療機関や病床、専門人材などの確保、医療機関における感染防護具等の備蓄、院内感染対策の徹底などに平時から取り組んでいくことを示している。将来に向け、確実に取り組んでいけるよう、進捗を注視していかなければならない。

桜

顧問　川口 順子
東京財団政策研究所 名誉研究員
武蔵野大学客員教授、国際総合研究所フェロー
元外務大臣、元環境大臣

中国の西安に青龍寺という仏教寺院がある。ここは9世紀初めに留学生として唐にわたった空海が密教を学んだところである。私が訪れたのは数年前のことで、境内には、一瞬中国にいるのか日本にいるのかわからなくなるような仏教寺院の静寂さがあった。石畳の小径を歩いた奥に、日本の仏教界が贈った恵果・空海の記念堂があった。境内にはまた、千本の桜の木がある。これは四国の四県から友好の印として贈られたものだそうで、櫻花の季節ではなかったものの青々とした葉が境内に潤いを与えていた。

日本が海外に贈った桜で一番有名なのは米国ワシントンの桜であろう。桜は100年を超える年月を大切にされ、今も爛漫と咲き誇っている。このほかにも日本から贈られた桜は、ウズベキスタンの日本庭園にもヨーロッパや南米にも地球の多くの場所で友好の象徴になっている。

私が見たいと思っている桜が中国にある。それは故中曽根総理が故胡耀邦総書記の墓地に贈った100本の桜である。中曽根総理と胡耀邦総書記は日中友好の重要性について肝胆相照らしたリーダーであった。「自国のことだけ考えて、相手の国やアジア全体の利益を考えない愛国主義は狭い愛国主義、誤国主義である」が胡耀邦総書記の考え方であったと伝えられる。胡耀邦総書記のその後の失脚が日中関係の難しさを物語る。

間もなく春、今年も桜が咲く。荒波は今後とも国際社会を翻弄し続けるであろうが、日本と中国の国民の友好関係のみならず、国境を越えた人と人との友好・信頼関係の大事さに、この季節、改めて思いを馳せたい。

「こども家庭庁」について

自見 はなこ
自由民主党 参議院議員

現在開会中の今国会では、子ども政策の一元的な司令塔である「こども家庭庁」の設置法案が議論される。これは、2018年に超党派議員連盟の事務局長として議員立法に取り組み、成立した成育基本法の附則にある、必要に応じて行政組織のあり方を見直すという規定に基づく施策である。

成育基本法の成立によって、様々な政策が大きく進展した。2021年2月に閣議決定された成育医療等基本方針には、産後ケア事業の推進、医療的ケア児の支援、新生児聴覚検査体制の整備、学校健診での視覚屈折や側弯症検査の推進、性教育の充実、ＣＤＲ（子どもの死亡事故を検証して再発防止につなげるしくみ）などが盛り込まれており、立法においても、成育基本法成立後に、産後ケア事業を法制化した改正母子保健法、ＣＤＲを盛り込んだ死因究明等推進基本法や、医療的ケア児支援法も成立するなど、着実に前進している。

しかしながら、根本的な問題として、国の省庁間の「縦割り」、国と地方の「横割り」等を乗り越え、切れ目ない支援を実現するためには、強いリーダーシップを発揮する専任大臣のもとで十分な予算をもつ「こども家庭庁」がプラットフォームとなり、省庁間、国と自治体間の連携を図っていく必要がある。

「こども家庭庁」は、設置法が今国会で成立すれば2023年4月に設置されることとなる。成育基本法や児童の権利条約に則り、期待した成果が実際に上げられるよう、与党でたった一人の小児科医として全力を尽くす所存である。

新会員から①

前田 誠一
相模原市相模台地区上溝自治会会長

米倉正明様のご紹介で入会しました前田誠一です。昭和24年台東区鳥越生まれ、実家はお米屋、下町育ちです。早稲田大学を卒業後旧住友軽金属工業(現UACJ)に就職、退職後は相模原市に住んでいます。

自己紹介に、里親関係と自治会関係について触れます。

① 里親　実親の下で養育されない子ども(要保護児童)は、日本全国で約45,000人おり、その70%は児童養護施設で生活、30%弱が里親家庭です。欧米の国々と比較しますと、先ず人口あたりの要保護児童数が少ない。日本では保護されていない潜在的子どもたちがいると考えられます。次に欧米での里親家庭での養育比率は７０％以上であり、児童は家庭に近い環境で養育すべきとの国連から勧告を受け、日本政府も早く欧米並みに里親家庭養育を拡充するよう自治体に指導しております。さらに、児童福祉法により18才で自立をしていかなければならない子どもたちの社会生活は、決して良い環境ではありません。

年に一度の自治会お祭り

里子の自立のためのスクーリングプログラム

私は、昭和62年に里親登録をしました。相模原市が政令指定都市になるに際して「さがみの里親会」会長となり12年在任していました。里親会では、里親普及、里親・里子の交流、里親が抱える課題の解決など取り組んできましたが、被虐待児の対応など沢山の課題があります。
また、12年前に里子の社会的自立のため神奈川県

下の横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市とその他神奈川県域の　5里親会で「NPO神奈川フォスターケアサポートプロジェクト」を立ち上げ、自立のスクーリング・プログラム、交流会、研修会の3事業を行なっています。

②　自治会　　相模原市は、人口72万人で589自治会があり、自治会の役割は、防災・防犯、環境・福祉、親睦・広報などです。ただ、加入率が60%程度で、特にアパート居住者・単身者の加入が少ないのが課題です。
小生は279世帯の自治会長をしており、防災・防犯では、年3回の防災訓練や年末の防犯パトロール、年２～3週間の地域巡回青パトや防犯カメラ設置など。環境・福祉では、ゴミ集積所のカラス対策、不法投棄対策。福祉では、高齢者サロン、民生委員さんと協力して要援護者見守りなど。親睦・広報では、夏祭り(新型コロナで２年休止)、老人会活動(グランドゴルフ、麻雀、踊り等)支援、毎月の班長会議、三役会、回覧板などを実施しております。

また、相模台自治会連合会で二つの小学校の子どもたちの学習支援センター(無料塾)をそれぞれ週一回(月・水)実施しております。4年目になり、各20人以上の子どもたちが集まって学習しています。

新会員から②

藤井 秀樹
山梨大学　名誉教授・参与

これからの日本の学問の質がますます低下してゆくであろうことが、識者に指摘されることが多くなりました。私も40年間近く、大学で医療、教育、研究に携わってまいりまして、その感を深めております。

若い方たちが真に安心してしかも生きがいをもって学問に取り組むことができるような環境を整えることは私たちの義務だと思っております。どのようにすればよいかと考えておりましたときに、それぞれの分野で一流の方が集われ、広い視点で活動されている日本賢人会議所を知りました。

さらに偶然ですが、日本賢人会議所の理事でいらっしゃる泉宏様に、2021年1月、内外情勢調査会の山梨県支部懇談会でご講演いただきました。そのご縁で入会のご推薦を頂きました。

学問の質を高めることは国の根幹をなす重要なものと考えています。

これから多くの会員の皆様からご指導いただきながら、微力ではありますが努力してまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局追記：　山梨大学副学長、大学付属病院長、甲府市立病院長等を歴任

日本賢人会議所 51の定例（月曜）セミナーを振り返る

月曜セミナーと呼ばれる当会の定例セミナーは、コロナ禍の中で2020年3月から開催を控えていました。蔓延防止等重点措置の全国的な解除を受け、2022年3月28日月曜、政治ジャーナリスト・泉宏当会理事による「岸田政権はどこへ向かう」をテーマとした第51回セミナーを持って本格的に再開されることが期待されます。記念すべき7年前の第1回セミナーは、同じく泉氏による「安倍政権はどこへ向かう」でした。

回	テーマ	年月	所属	氏名
第1回	安倍政権はどこへ向かう	2015年3月	政治ジャーナリスト	泉宏氏
第2回	卵子老化と少子化対策	2015年4月	出産ジャーナリスト	河合蘭氏
第3回	移民定住による多子化問題	2015年5月	移民政策研究所長	坂中英徳氏
第4回	少子化歯止めの秘策を考える	2015年6月	産経新聞論説委員	河合雅司氏
第5回	太平洋の島々をもっと知ろう	2015年7月	駐日ミクロネシア連邦大使	ジョン・フリッツ氏
第6回	老年よ大志を抱け	2015年8月	(一財)博慈会老人病研究所所長	福生吉裕氏
第7回	ふるさと納税が日本再生・地方再建のカギ	2015年9月	NPO法人長崎の風事務局長	増田泰之氏
第8回	健幸華齢≒健康長寿	2015年10月	筑波大学大学院教授	田中喜代次氏
第9回	スーパー神話古事記の世界	2015年11月	昭和音楽大学名誉教授 舞踏家・芸術監督・演出振付家 脚本家 女優	國武忠彦氏 西島数博氏 市川愉実子氏 柴田(市川)美保子氏
第10回	古事記朗誦・やまとかたり	2015年12月	やまとかたりの会代表 御製奉唱の会代表	大小田さくら子氏 斎藤博子氏
第11回	わたしの仕事、わたしの活動、わたしの人生	2016年2月	メークアップアーティスト	カオリ・ナラ・ターナー氏
第12回	夢ありき	2016年3月	NPO法人ハローバークレー代表	茂森政氏、茂森和子氏
第13回	災害対策は義理と人情で	2016年4月	相馬市長	立谷秀清氏
第14回	少子化という静かなる有事	2016年5月	産経新聞社論説委員	河合雅司氏
第15回	セカンドライフの楽しみ方	2016年6月	元毎日新聞社常務	中島健一郎氏
第16回	古事記が語り継ぐ上代日本語の霊力	2016年7月	主婦の友社元編集長、武蔵野大学講師	原山建郎氏
第17回	わが国の留学生30万人計画と留学生支援	2016年9月	（株）学生情報センター代表取締役社長	西尾謙氏
第18回	万葉集に詠われたやまとごころ	2016年10月	主婦の友元編集長、武蔵野大学講師	原山建郎氏
第19回	東京オリンピック・パラリンピックへの提言	2016年11月	障がい者支援NPO法人STAND代表理事	伊藤数子氏
第20回	少子高齢化に歯止めを～結婚相手紹介サービスの出来ること	2016年12月	（株）ツヴァイ社長	縣厚伸氏
第21回	多子化健全社会構築ワークショップ	2017年2月	提言作成グループ	松本英昭副会長、千代田行麿副理事長、佐伯浩明理事
第22回	どうなる安倍政権･･･森友問題、小池都政など	2017年3月	政治ジャーナリスト	泉宏氏
第23回	シニアライフと栄養学：50兆円に向かう医療費削減のために	2017年4月	日本食育協会理事 医学博士	長野美根氏

以下に、これまでの様々なセミナーを振り返ります。なお、セミナーの内容詳細は当会ホームページの「活動内容」「定例セミナー一覧」をご覧ください。

舞踏家・芸術監督・演出振付家
西島数博氏ほかの皆さま

メークアップアーティスト
カオリ・ナラ・ターナー氏

日本食育協会理事・当会理事・医学博士　長野美根氏（故人）

豊島区政策経営部長
城山佳胤氏

回	テーマ	年月	所属	氏名
第24回	国際アート・カルチャー都市へ向けて～豊島区の挑戦	2017年5月	豊島区政策経営部長	城山佳胤氏
第25回	世界に通用する人づくり～脳教育と自己革新～	2017年6月	Uホープ㈱代表取締役	阿部忠氏
第26回	体質と未病～ぴんぴんころりの体づくり～	2017年9月	金沢大学大学院教授	鈴木信孝氏
第27回	未病そして健康マスター検定	2017年10月	日本健康生活推進協会理事長	大谷泰夫氏
第28回	科学技術が進歩した長寿時代のいのちーひとりの人間として晩	2017年11月	認定NPO法人ホームケアエクスパーツ協会理事長	酒井忠昭氏
第29回	森を育てる家づくり	2017年12月	伊佐ホームズ社長	伊佐裕氏
第30回	日本のこれからを考える－小児期、成人期、高齢期の大規模疫	2018年2月	富山大学教授	関根道和氏
第31回	働き方改革について	2018年3月	衆議院議員、自由民主党厚生労働部会長	橋本岳氏
第32回	笑顔伸ばそう健康寿命延伸	2018年6月	参議院議員、自由民主党厚生労働部会副部会長	自見はなこ氏
第33回	心の免疫力を上げる７つの習慣	2018年7月	メンタルプラス（株）代表取締役	和田隆氏
第34回	ジェロントロジーから見た100歳時代の生き方	2018年9月	東京大学医学系研究科特任助教	宮内康二氏
第35回	中国の医療事情と治未病センター	2018年11月	新宿医療センター医師	鐘良辰氏
第36回	21世紀最初の独立国～東ティモール	2018年12月	日本東ティモール協会会長（元防衛施設庁長官・初代	北原巌男氏
第37回	覚醒と睡眠	2019年2月	メンタルプラス（株）代表取締役	和田隆氏
第38回	未病プロジェクト中間報告会	2019年3月	未病タスク	福生吉裕副会長、渥美豊太郎氏ほか
第39回	行列のできる食育保育園とは	2019年4月	豆の木ハウス園長	蛭田さゆり氏
第40回	日本地雷処理を支援する会（JAMS）の取組み	2019年5月	認定特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会（JMAS）理事長	鈴木純治氏
第41回	ラグビーワールドカップ2019への期待と展望	2019年6月	大会組織委員会事務総長	嶋津昭氏
第42回	世界と日本の架け橋となる若者を育てる～ホストファミリーと	2019年7月	公益財団法人AFS日本協会	藤澤紀子氏
第43回	最近の中国経済情勢：安定成長へのかじ取りの難しさ	2019年8月	キャノングローバル戦略研究所研究主幹	岡嵜久実子氏
第44回	世界に広がるアマチュア相撲	2019年9月	日本相撲連盟会長、国際相撲連盟事務総長、JOC理事、山王病院医師	南和文氏
第45回	グーグルで必要なことはみんなソニーで教えてくれた	2019年10月	アレックス(株)社長	辻野晃一郎氏
第46回	おしゃれで脳トレ	2019年11月	いきいき生きがいプロジェクト代表	岩井ますみ氏
第47回	南の島の子供たちを東京オリンピック・パラリンピックへ招く	2019年12月	指揮者 早稲田大学名誉教授	坂本和彦当会理事 渡辺仁史当会理事
第48回	知事として学んだこと	2020年1月	元NHKキャスター、高知県知事、武蔵野大学客員教授	橋本大二郎氏
第49回	少子化の克服と多子化への道	2020年2月	ジャーナリスト	佐伯浩明当会理事
第50回	政策研究会～政治家としての志、優先すべき政策課題等～	2021年12月	自由民主党衆議院議員 日本維新の会衆議院議員	国定勇人氏 小野泰輔氏
第51回	岸田政権はどこへ向かう	2022年3月	政治ジャーナリスト	泉宏当会理事

金沢大学大学院教授
鈴木信孝氏

自由民主党参議院議員
自見はなこ氏

メンタルプラス（株）代表取締役
和田隆氏

豆の木ハウス園長
蛭田さゆり氏

アレックス（株）代表取締役社長
辻野晃一郎氏

いきいき生きがいプロジェクト代表
岩井ますみ氏

第17回理事会報告

令和4年3月28日に開催された第17回理事会において、令和４年度事業計画案および収支予算案が承認されました。その結果、次の組織体制を強化し、事業・プロジェクトを推進することが確認されました。

委員会：「事業企画推進委員会」「文化教育委員会」「広報渉外委員会」「コンプライアンス委員会」

事業・プロジェクト：「南の島プロジェクト」「多子化プロジェクト」「未病プロジェクト」「地球環境プロジェクト」「働き方改革プロジェクト」「縄文文化・古事記プロジェクト」

各委員会およびプロジェクトへのご参加を歓迎致しますので、お気軽に事務局までお問合せください。

広報渉外委員会から

この会報は、広報渉外委員会の渡辺仁史理事および小林正博事務局長が構成・編集を担当して、お届けしています。

今後は、メールベースのニュースレターやSNSも活用していく予定です。

会報へのご寄稿および広報渉外委員会へのご参加を歓迎いたしますので、お気軽に事務局までお問合せください。

日本賢人会議所連絡先

〒108-0023 東京都港区芝浦
1-13-10 第3東運ビル４F
TEL : 03-6809-4950
FAX : 03-6809-4951
E-mail : info@nipponkenjin.com
HP : https://
www.nipponkenjin.com/
FB : https://
www.facebook.com/
smart.senior.council/

みなさん、輝いていますか、ワクワクしていますか

「感動と共感」ー　私は、高校生合宿で"新しい時代"を目の当たりにしました。ー

理事長　小早川 明徳

私は昨年の夏の高校生を中心とした合宿に5日間参加しました。プログラムも参加者から自在に提案され、同時に4–5通りのプログラムが進行、生徒は志願して参加を決める。お寺の若僧侶は瞑想を提案、早朝、20人ほどの若者が坐禅を組む。私は、"地球環境"の実践課題を提案しました。何の課題を学ぶかの選択も自分でやる。

食事も、納豆あり、ヨーグルト、キュウリ、ナスあり、お味噌が何種類も揃う。バナナ、乾燥ご飯なども山盛り、電子レンジ、電気オーブンが大活躍。その食材は自分の選択で、値段の提示もない食品へ自分感覚でお金を払う。課外行動も、クルーズに行く、美術館にいく、ヒッチハイクをしながらの観光地巡り。誰と何をやるかも自由自在。全てが、自己判断。悩みをぶちあけて、「俺も」「私も」、隣も前の子も、みんな悩みを持ってることに改めて気づき安堵する顔かお。

時の経過とともに、参加者の顔が輝きをましていく様を間近に"目から鱗！"、「自分は英国の大学へ」、「私は、開発途上国で医療に従事」、「私は女優になる」などなど交わす声も弾む。プログラムへの参加も日毎に積極的になっていき夢を語り合うその姿に"日本の未来は明るい"と確信しました。

寄り添うことが、いかに大事か、その拠って立つところを共有して、初めて共感が可能になる。型にはめず、自由に気の赴くままに選択させる現場で、小さな自己決定を重ねていく毎日。参加者の表情が変わっていく。箱根の山の天気の変化にも優る参加者の変化でした。

天候の変化も激しい合宿を思い出し若き友との会話を反芻する。「かく在りたい。こんな人生を描きたい。」。その時の、自分で描いた"明日の自分"。その姿に向き合い素直に前を向いた想いが伝わる。若者の明日は明るい。合宿の"友"は「宝」。自分自身も確かな手応えを感じ生涯の資産となった"ご縁"でした。そして、感動と共感の時を過ごし、自分の進化をも実感しました。素晴らしい新たな学びの場をいただき感謝しています。感動を有難うございました。

この感動と共感が、晩秋の所沢サクラタウンkadokawaミュージアムでの　世界の海洋汚染に挑戦する"取り戻そう！魚と人に優しい海を"「海のお掃除プラントロボット"夢"コンテスト」の、高校生、大学生、そしてシニアの協働参加を実現、見事、記念すべき第一回を成功に導きました。

皆様も、ぜひ、一度、覗いてみていただけませんか。あなたは、若者との出会いで新しい時代とも出会えるでしょう。そして、新しいあなたと出会うことも請け合いです。自分のミッションを再確認して、生在る限り輝いて生き抜きましょう。「生きること」、それは生かし合いの世界で"自分が生かされている"ことを知ることだと感じています。